

児童福祉施設福祉サービス

第三者評価認定書

光の子保育園 殿

冬でも温暖な沖縄市という地域の静かな住宅地にある温かい環境の中で子どもたちは明るくのびのびと生活している園である平和を強く願い個を大切にしながら温かさを持った園として日々の保育を続けている平和教育はキリスト教保育を支える基盤であり特に人の関係の温かさが最も大切であるがそれをしっかりと備えた人間関係子どもたちと保育者そして園長との関係はおおらかに素晴らしい 今後は個々の子ども達の発達理解を深め子ども自らすすんで遊ぶ保育展開に心がけこの園で過ごす子どもたちが平和に幸せに過ごすための努力を期待する

二〇一一年八月二十四日

日本キリスト教保育所同盟 理事長

小南

同 児童福祉施設福祉サービス
第三者評価委員会 委員長

岡山孝太郎

日本基督教
保育所同盟
理事長印

日本基督教
保育所同盟
第三者評価
委員長印

日本キリスト教保育所同盟「福祉サービス」
「第三者評価」訪問結果

訪問調査委員会 於：京阪ホテルロビー
2011年 3月 14日(月)PM3:00
第三者評価委員会(全体) 於：京都丸太町教会会議室
2011年 月 日() PM ~

☆光の子保育園 沖縄県沖縄市 訪問日 2011年1月13日(木)

○全体的な感想

静かな住宅街の急な坂道を下った行き止まり道路の奥にある保育園である。
キリスト教保育で最も大切なのは人の関係の温かさであるが、それをしっかり備えている園である。園長と保育者、そして子どもたちとの関係は、おおらかで素晴らしい。
子どもの発達理解と保育内容とのバランスが気になる面がいろいろあったので、この園に在園する子どもたちが幸せに過ごすために気づいたことを詳細に記載したい。

【Ⅰ. 運営管理】

- ①基本理念と保育方針 ②組織 ③人事管理・・・等に関して
- ・キリスト教保育の理念や方針のもと日々すすめられている。
 - ・提出書類、自己評価表などから、整っているのが読み取れるし、訪問したことでも分かる。
- ④安全管理
- ・おおむね整っているが、園庭の遊具の設置など、変更したい箇所もある。
- ⑤保健衛生
- ・清掃は全般的に行き届いているが、玄関にある図書コーナーの棧や階段等の手すりや、クラスによって棧に埃がある箇所も少し見られた。
 - ・マニュアルもあり、主任保育者が管理しているが、どこにあるか知らない保育者もいた。徹底させたい。
 - ・手洗い習慣が付いていないのが残念である。清潔と不潔の区別を幼いときに身につけさせたい。
 - ・手洗いの石けんは液体洗剤の方がよい。
 - ・園庭から入れるトイレの手洗い場に、石けんがなかった。必要である。
 - ・オムツ交換で、汚れたオムツをビニール袋に入れ、着替えが入っている個人用袋に入れていたが、着替えはそれぞれのロッカーに入れ、汚物は汚物入れ(別の袋かバケツか)に入れ、保育室外に置くようにして、保護者が持って帰るようにしたい。保護者から他の衣類に臭いがつくという苦情の解決にもなる。
 - ・オムツ交換は一人を替えるごとに手洗いが必要。その場面が見られなかった。
 - ・保育室内に手洗いが必要。
 - ・0歳児室のトイレ、沐浴室との境にある窓ワクに戸が入っていない。匂いの流れや衛生面が気になった。改善したい。
 - ・歯磨きの一貫としての「フッ素」の口腔内洗浄をクラス毎で行うのを見た。
- ⑥守秘義務
- ・自己評価表では、理解はされているようだったが、保育展開の中で、徹底されてないと感じる場面があった。

【Ⅱ. 子どもへの発達援助】

- ①発達援助
- ・自己評価表では、理解されている感じであったが、保育展開の中では、研修が必要であると感じることが多かった。具体的には、後記の具体的な内容で報告したい。
- ②保育展開のための安全
- 「室内」
- ・家具の固定(ロッカー、下駄箱等)が必要。
 - ・椅子の座面の高さに配慮が必要。子どもの踵が床につく状態に個々に気をつけたい。
- 「園庭」
- ・園庭の遊具は少ない。遊具らしいものは雲梯・登り棒・土の斜面とトンネル、その側のタイル壁にはロッククライミングふうの遊び場がある。ロッククライミングは十分に活動できない設置になっているので、上部の手摺りを奥へ移動し、上に登っても安全に下に降りる場所を確保するようにしたい。
 - ・園庭には足洗い場が2ヶ所あるが、手洗い場がなかった。園庭には手洗い場は必要である。
- ③保育の環境
1. 場の環境から観て
- ・丘陵地のアップダウンのある住宅地で、周辺は道路の狭い2階建ての古いコンクリート造りの住宅が多く建っている住宅地の一角の奥まったところに保育園が存在している。
 - ・園の前面道路も狭く行き止まりの道路なので、園のまわりは静かで過ごしやすい様子が見られた。
2. 物的環境から観て

- ・ 保育園の建物は地下に職員駐車場を整備し、1階に車止まり、車のターン場所を設置したりと工夫されている。これだけ車に配慮した保育園はめずらしい。
- ・ 増築→増築→改築された新しい園舎で、園庭には花もいろいろ植えてあり、きれいに咲いていて、雰囲気はいい。ランタナが花を付け、花壇にはインパチェンスも咲いていた。訪問日の気温は、16°～17°で肌寒く感じたが、保育者や子どもたちはTシャツ1枚で過ごしている。
- ・ 建物は屋上に庭園と広場(夏にはプールを設置)のある2階建ての建物で階高が非常に高い。それをうまく利用して、中2階に園長室、会議室、休憩等を配置している。職員トイレは新式で手洗い部分は自動になっていて衛生的である。
- ・ 保育室の天井が高く、高さを利用した子どもの遊びコーナーを整備している。
- ・ 園庭の非常すべり台の上部の柵が横棒になっていたのも、子どもが足をかけて遊ぶのではないかと危険性を感じた。
- ・ 園庭には足洗い場はあるが、手洗い場がないので設置されたい。
- ・ 足洗い場のうしろは、石造りのベンチになっていて、訪問のときには、サッカー遊びからかえってきて他の園児が保育室におさまっているのに、2人の女児が片足をベンチの上部に上げ、楽しそうに洗っているのは見たが、多くは使われていなかった。目的や必要性がよく分からなかった。
- ・ 玄関ホールの一隅にある、スタンドグラスが設置されている図書コーナー付近を整理したい。落ち着いた静かな一隅になっているが、訪問日にはその一角で絵本を見る子どもの姿はなかった。図書コーナーの上の段をとっても良い場所なので、絵本のコーナーとママゴトコーナーにして自由に遊べる場を利用したい。落ち着いた遊び場になるだろう。
- ・ 1階は幼児クラス、2階に乳児クラスと一時預かりと特定保育室と遊戯室がある。
- ・ 木を多く使用した明るい保育室だが一部に移動壁が使われている。
- ・ 乳児の保育室は広いが、幼児の保育室は普通である。
- ・ 乳児の保育室の環境設定と落ち着いた遊び場になるような使い方を工夫したい。
- ・ 各保育室には、危険な場所や使いにくい場所があった。5歳児の保育室のハンカチかけ、手洗い場、水筒かけなど目を痛めるのではという心配箇所があった。
- ・ ホールの正面に大きく「隣人を自分のことのように愛しなさい」書いたのが貼ってある。どの聖書からとり書かれているのだろうか。新共同訳聖書ではないようだったが、聖書の言葉は、そのまま使いたい。分かりやすいからと変更すると、取り方が真の意味と変わってしまうおそれがあるので気をつけたい。
- ・ 屋上は、広いスペースがある。畑は広く栽培が期待できる野菜が植えてある。ほうれん草・大根・しまな・水菜・サニーレタス・トマト・ベビーリーフなどと、花もいろいろ植えてあり、オリーブの木もある。
- ・ 広い遊び場には、ラインが引いてあるだけで遊具用具は置いてない。外壁に穴があり安全にのぞけるようになっているが、目の前の木が見える方向のみで、広く景色が見える方は子どもの背丈では見ることはできない。
- ・ 屋上には移動可能なすべり台が2台おかれていたが、一角に乳児用の砂場があったらいいと思う。
- ・ 屋上の西側に足がかりが3箇所あることと、屋上までの階段に物を置かないこと気をつけたい。
- ・ 屋上の円形の屋根の下に細い溝があったが足を取られないか気になった。
- ・ 3歳児・4歳児の保育室の便所の手洗いは普通の大きさの洗面器に換えることを考えたい。
- ・ 5歳児保育室に専用手洗いの設置したい。

3. 人的環境から

A. 園長

管理者としての提出書類の内容、自己評価表の内容及び提出書類の整理内容は見事。

園長就任9年目であるが、創設者の思いを受け継ぎ、「いつも喜び、絶えず祈る」の理念を真摯な姿勢で過ごしている。

保育者一人ひとりと向き合い、心身の成長を見守っている。

自己評価表の記載内容も見事。理念、方針、考えも素晴らしい。保育者にも子どもにもおだやかで温かく接している。

朝か昼食時に、各保育室の園児にフルネームで個々に親しく呼ぶことをして、0・1歳児は抱きしめることを続けている。子どももいつの間にかそばに近づいている様子があった。

職員礼拝は、毎朝9時に朝礼・1～2名の保育者と共に少しの時間祈る時を持っている。聖書を保育者が読み、内容のメッセージを園長が語り、質問を受け、それに答え、クラスの様子を聴き、アドバイスや励ましをしている。年間を通しては一人の保育者の回数は少ないが、園長と私(個)が話せる場があることは、集団の中で個を大切にすキリスト教保育の保育者面談であり、充実した時間を持たれている。

今後は、園長の持つ、理念・方針・保育内容の具体的な考えを、保育者がキリスト教保育の意味を理解して保育展開に生かし向上するよう指導に努めてほしい。

B. 主任保育者

園長の方針をしっかり受けている。子ども一人ひとりを大切にす方針で「くん」「さん」をつけて、すべてを主にゆだね、与えられる平安に感謝し、子どもの気づきを大切に保育している。

各保育者がキリスト教保育の大切にしている保育展開には達していない面が見られるので、新保育所保育指針もあわせて読み、理解し、援助する保育内容に切り替える研修のリードに努力してほしい。

後日、保育課程及び指導案について依頼されたが、貴園は「保育課程の作成者は誰か」に関しての設問には全保育者が理解しているので、評価対象ではなく、別紙で後日(時間は未定)感想を述べさせていただく予定。

C. 保育者

経験年数を豊かな明るい温かい保育者が多い。素直に自分の意見を述べる力がある。保育内容の考え方には学びを深めて欲しい。新保育所保育指針が求めている保育内容は、子どもが主役になり、保育者は遊ぶ子どもの姿を見まもり、援助する姿が望まれているが、貴園の保育展開は保育者リード型でなされていた。改善が必要であり、兄弟姉妹が少数で暮らす現代の子どもが、意欲を持って動き出す保育内容でありたい。日々の保育内容、保育展開を具体的に学んで向上していただきたい。

職員礼拝は、毎朝、園長と主任と保育者で順に持ち、大事にしているのが、この園の特徴である。訪問日は、翌日の他園とのサッカーの試合のため、年長児をを応援する集まりがあったが、保育者の応援が一番力が入っていて元気いっぱいの様子が見られた。

保育者同士も仲が良く、主任を中心に協力し合っていることが、個別の話の中からうかがえた。

D. 子どもの様子

のびのびして子どもらしいが、自ら遊ぶ姿が見られなかったのは残念である。素直で明るく、薄着で元気な言動が見られる。保育者の指示どおりに素直に動いている。

④保育内容…保育内容と援助する保育者の姿

すべて、保育者リード型であった。

設定保育内容で終始していたので、園庭遊びや保育室内の自由な遊びは見られなかった。

全体会…ホールに集まり、讚美歌を歌い、サッカー激励会が始まった。園独特の行事。

- ・4歳児がポンポンを持って、5歳児を激励するリズム(?)は、やや訓練を受けている感があるが、舞台上にいる子どもたちは楽しそうにうまく踊っているが、舞台下にいる子どもは覚えていないのか、乗っていない子どももあつた。背の順序等ならいいが、動きのできていない子どもを舞台下で踊らせていたのならキリスト教保育から離れるが…。
- ・乳児にとって、保育になれてきている1月とはいえ、あの時間は長すぎるし、理解できていないと思える。
- ・近くの園との恒例のサッカー大会のため、励まし会も恒例のようだが、出来れば意味が理解できる幼児のみではどうか。全員で円形になり、4歳児が「来年は…」と期待するような、3歳児には憧れの5歳児を見て、「いつか…」と期待するような機会にしてほしい。4歳児のポンポン利用の応援は華やかだった。
- ・子どもたちより保育者が盛り上げようとしているのは感じとれたが、毎年するなら、各年齢の発達を考えて工夫したい。

1. 乳児の保育室

- ・誕生表の園児名は漢字で書かれていたのが珍しい。
- ・乳児の保育室は広い。廊下も広い。
- ・乳児の発達は著しいので、年齢はもちろん、月齢でもずいぶん差があるので、この日のリズムに関しては年齢別の方がよい。年齢により、テンポや動きを詳細に変えてすることが望ましい。

0歳児の保育室

- ・保育者は4名だが、常にリーダー保育者の言葉が大きい。リーダー保育者が場面展開(体操～ペットボトルのおモチャで遊ぶ～ベランダで遊ぶ)を導く形になり、子どもが好きな場所で好きな玩具で遊ぶという自然な動きが見られなかった。子どもの発語も聴きとりにくかった。ゆったりと子どもの姿を見ながら、保育者は静かな対応をしたい、それには子どもの手の届く所に興味を持つ玩具を用意する環境をして欲しい。
- ・いつでも子どもが自由に取り出せるおもちゃの場所にして個の遊びを保障してほしい。玩具はブロック、布製ボール、絵本、人形、縫いぐるみ、袋、等、いろいろな種類が欲しい。材質もいろいろだと感触が楽しめる(布、木、紙、プラスチック、スポンジなど)、未満児のボールは柔らかい手作りの布製などにしたい。保育者が選んで出す種類のみだったので残念。
- ・手作りおもちゃは多い。(ペットボトルや牛乳パックを利用)
- ・その日の誕生者を知らせる貼り紙があり、写真付きカードが飾られていた。誕生日を覚えて祝う気持ちが感じられた。全員の誕生日表の個人写真カードには誕生日と月齢が書かれたカードがあった。月齢のカードは、月ごとに入れ替えるとのこと、月齢が一目でわかってよい。
- ・月齢の発達がわかりやすく表にしてあった。保護者やパート職員もその表により、子どもの月齢と発達の目安がわかりやすくてよい。
- ・個人別の平均体温、発達の目安が一覧表になっていて見えやすい所に貼付され誰もが確認できてよい。
- ・沐浴便所、タオル掛け、目をひっかけるおそれがあるので、もっと奥に付けるようにされたい。
- ・特定保育室と一時預かり室を通過して未満児室に行く用になっているのか。保育園の中で一番安定しない特定保育室の隣に未満児保育室なのか。変更したい。
- ・ホールから帰り、手作りボールを出し、遊び始めるが、投げの子がいるから危険だとさっさと片付け、体操を始める。曲をかけているが、この年齢には動きが速く、少数はしていたが、退屈して寝転んだりしている子どもたち、離れたりにしている子どもの手を引っ張り参加を促していた。参加したくない子どもの気持ちを理解したい。
- ・トイレと保育室との間には窓があった方がいい。また、そこにコップやお茶が置いてあったのは、意味がよく分からなかった。
- ・お祈りの言葉が速い。
- ・移動型のサクにプラスチック製の同種の多機能玩具が数ヶ所、設置されていて、これは自由に遊べるようになっている。

(調乳室)

- ・現在はあまり使用されていないように感じた。調乳室は奥まっけていてそこから保育室を見ることができない。
- ・給食・衛生管理マニュアルはよく見えるところにかけてあった。

1 歳児の保育室

- ・保育室が広すぎて落ち着かない様子がある。たたみが敷かれたコーナーがあり、保育室が広すぎるので、ロッカーや玩具コーナーなどで工夫すると良いように思えた。
- ・玩具コーナーの一角があったが、玩具置き場所で、子どもは自由に取り出せない状態だった。自ら出せるおもちゃが少ないので、自由に出せて遊べるコーナーの環境を工夫してほしい。
- ・乳児で曲に合わせて踊る時間があつたが、ほとんど動いていなくて突っ立っていた。1歳児だけで曲や動きが合うものを提供したい。
- ・屋上で遊んでいたが、広い場所では、遊具がないので、よーいドンと保育者の声で1・2回走っていた。子どもの発達援助のためには、保育者も共に周囲をぐるぐる走るか、保育者がオニになり、追いかけてごっこをすると子どもは大好きな保育者と遊べる喜びで逃げ回り、十分な運動遊びを獲得させることができるように援助したい。
- ・すべり台も置き場所を工夫したい。
- ・屋上で遊んだあと、保育室に戻ってきて、排泄を順次すませて、絵本を全体で見る。とても集中して見ていたが、一人だけ、ウロウロと歩き回る子どもがいた。その子どもの好きなようにさせて、見守っていたのがよかった(途中入所の新入園児とのこと)。
- ・聖画が壁に貼られていたのは、この保育室だけだった。
- ・個別の検温表が貼られていた。
- ・食事用の赤椅子2ヶが、トイレの中に置いてあつた。現在使用してなくても、食事用のものをトイレに保管するのはやめたい。
- ・トイレに行った後、手洗いをしていないし、保育士も関心があるようには見えなかった。
- ・便所の中に便所専用の手洗いの設置が必要。
- ・便所内の低い台を撤去し、沐浴槽への子どもの落下を防ぐため、保育室側に低い腰壁付け、そこにタオル掛けの設置をするとよい。
- ・食事前の手洗い(個人用のタオルかけの場所がない為)後、手拭きタオルを共有していた。途中で何度か交換していたが、個人用タオルを使用する様にしたい。タオルをかける場所の設置も必要。

2 歳児の保育室

- ・誕生表の子どもの名前が漢字になっていた。珍しい。
- ・ホールで乳児が踊っているとき、サンシンのリズムで始まる「南の島(?)パパイヤ(?)」の曲には嬉しそうに楽しく踊る姿があつた。
- ・カルタ他の遊びで、低いダンボールの囲いは何のためにあるのか。
- ・お正月あそびのコマ回しとだるま落とし(1台のみ)のコーナーとお手玉コーナーとカルタコーナーに分かれての遊び始めてから段ボールの囲いを設置していたが、子どもが自由に行き来してコーナーを回ったりする姿が見られなかった。低い丈の囲いは必要なのか。
- ・遊びが決まっているのか、子ども同士で「○○ちゃんがあっち」と言っていた。
- ・コマもだるま落としもお手玉も数が少ないし、工夫できる備品もなかった。例えば、箱のフタの中でコマを回したり、お手玉を投げ入れたり等、遊びが膨らむものがほしい。
- ・お手玉はこの年齢では投げるだけの遊びになっているので、コーナーにしないで、自由にすれば、子ども発想で遊びも広がったのではないかと思える。
- ・コマのコーナーにいた保育者は言葉のかけ方が元気すぎて、椅子に座っていて子どもへの対応があつたが、できれば同じ座位で子どものそばで関わることが望ましいと思える。
- ・園庭の外の道路をゴミ収集車が通るとき、園児に向かって手を振る姿があつたが、保育者も園児も気がついてないのか応答もし無かつたのが残念だった。
- ・トイレの中には子どもの専用手洗いの設置が必要である。
- ・トイレはドアがなく保育室にあるので、廊下から保育室をのぞいた時に臭いが気になった。
- ・タオルのフックが出ていたのは目を傷つけるので、タオル掛け上部がかくれるように、ふたをつけるようにしたい。
- ・ロッカーが車輪つきで、移動壁が2面ある。行事の時に開き、ホールの一部に使用する時のためにロッカーを動かしやすくしてあるが、日常の保育の中で、ロッカーが動きやすいのは、災害時の安全面で心配になる。
- ・屋上では、一時預かりの子どもと1歳児もそれぞれに遊んでいた。2歳児は1歳児と同じく、おもちゃがないので走ったり窓からのぞいたりしていた。走りを中心にすれば、追いかけて、つかまえたり、そこでスキンシップがとれるように楽しく一人ひとりと触れあうなどの対応が必要である。すべり台も2基がくっつけて置いてあり、置き方や遊び方など、たのしく過ごせる場の工夫が必要である。広いスペースを生かして自由におもちゃを出してあそべるような環境にしてほしい。

2. 幼児の保育

3 歳児の保育室

- ・椅子を持って階段を降りていくのには驚いた。見ていてハラハラした。あの集会なら、わざわざ運ぶ意味がないし、椅子なしでもできるし、ホールにあるマットとか平均台に座っても出来るので、何が今の発達する過程に即しているのかを押さえて援助したい。

4 歳児の保育室

- ・数種の製作、福笑い、パズルをしていた。上部のコーナーで楽しそうにブロック遊びをしていた。

壁面展示は高すぎるのではないか。

5 歳児の保育室

- ・明日のサッカー試合のため近くの公園で練習(?)していて園にいない時間が多く活動は見られず。10月から昼寝はしないようになってきている。
- ・保育室には機織りを楽しんでいる雰囲気のある作品(途中作品)があった。5歳児の伝統らしい。
- ・手洗い、ハンカチ掛け、水筒掛けが怪我につながらないか気になった。
- ・公園でのサッカーから帰ってきて食事の準備になるのだが、仲間が保育室に入った後も、長い間2人の女児が楽しそうに、おしゃべりしながら、足洗い場のベンチの上部に片足をかけ足を洗っていた。保育室の様子も気にせずに、担任保育者も気づかずに食事の準備をしていた。運動あとの疲れをいやすような雰囲気だった。
- ・幼児は水筒にお茶持参である。
- ・5歳児の設定保育

「食事」に関して

- ・この時期の食事準備としては、どのクラスも時間がかかりすぎであり、できれば温かい食事を与えたい。
- ・0歳児では、テーブルは2台出されたが、ひとつは配膳台に使用され、1台には周りに子どもが9名座る形になっていた。3人は食卓椅子を使用、残り6人の内2人が箱形椅子を使用していた。子どもの動きに合わせてとのこと。給食室から、ご飯はボール、すまし汁はお鍋におかずは大皿に盛って運ばれ保育室内で、盛りつけられ、子どもに合わせての分量が入れられる。
- ・1歳児ではテーブルに個人名が貼られていて座る場所が決まっています、盛りつけは保育者がしている。
- ・3歳児では、子どもが好きな分量を伝えていた。各自で配膳し、お祈りは保育者がして食べ始め、子ども同士また保育者との会話が楽しげだった。
- ・5歳児では、おかずの栄養についての会話が出る「シラスは何の栄養がある?」「アカー」「ミドリ一」、食育を大切にしているようだが、副食の説明は丁寧すぎるし、食べながらも良いのではないだろうか。温かい内に食べるおいしさを大事にしたいし、「先生教えてください」と当番の子どもが一斉にいうのは不自然に感じた。
- ・5歳児のサラダの量は少ないように思う。血液サラサラのためにも量を増やしたい。
- ・お祈りを大事にしてほしい。食事の祈りは、感謝に気づける時であり、子どもが常に喜ぶことが大切と知る良い機会でもあるから、乳児は、保育者がありがとうの気持ちを入れて短く祈り、5歳児ならば子どもが祈ることもできる時期である。
- ・お祈りの中に「お台所の先生に……」は不適當に感じた。貴園の「さん」「くん」をつけ、個を大切にとの方針からは離れている、十把一絡げの言い方は食事を作ってくださいる方には失礼である。

「厨房」に関して

- ・献立表はわかりやすい表示で、沖縄市の献立が基本で園に栄養士は不要であっても良い。
- ・沖縄のメニューでは、カレー汁物、煮物などの「だし」として豚が使用されることが多く、食材としても使われることが多い。土地ならではの献立名も楽しい。
- ・加工乳(脱脂粉乳入りの牛乳)が市のすすめとして使用されている。
- ・個々の盛りつけは、各クラスで保育者が行うので、調理師は盛りつけの必要がない。
- ・回転釜はない。
- ・厨房の汚染部分に職員用のコーヒーメーカーなどが置かれ使用されていた。気をつけたい。
- ・清潔ゾーンのコップ置き場に卵が置いてあったし、下処理場にコーヒーやお茶が置いてあり、ここでお茶を入れたりしていたし、清潔ゾーンと不潔ゾーンの区別はきちんとされたい。
- ・配膳室…流しとリフトの間、サークル戸奥の倉庫に子どもが自由に行くことができるので、リフトは危険を感じる

【Ⅲ. 子育て支援】

①利用者サービス

- ・利用者アンケートによると、大半の保護者から満足している様子が見られ関係は良好である。
- ・キリスト教保育の「方針」「祈り」「人への思いやり」「感謝の気持ちが育つ」「優しい心が育つ」「戦争や平和学習の充実」など良い教えがされていることが出ている。
- ・保育者等の職員には「担任以外も声をかけてくれる」「話しやすい」「しつけをしてくれる」「明るい」「のびのび育ててもらっている」「意見を聞いてくれる」「子どもが喜んでいく」「行事が素敵」など満足されていることが多い。
- ・ごく少数だが、こんな意見が述べられている。「キリスト教保育だから夏祭りはないのか」「部屋に一人残されていた」「子どものいたずらに対して”お母さんが迎えに来ないよ”とは言わないで欲しい」「今はマンモスで少し残念、前は少数でよかった」「使用済みの紙おむつの持ち帰りは困る」「他の子どもがベットで泣いているのに保育者は見ていない。我が子だったらと驚いた」「喘息の我が子だが、着替えがなされていない。着替えさせて欲しい」「保育料が高い」というのがあった。
- ・また、土曜保育への不満があった。「主任さんが家庭保育をと強く言われた」と。理解を得られるように説明したい。
- ・保護者にはその都度、説明が必要であろう。誤解して取っているケースも多いのではないだろうか。園側は子どものことを考え、意味のある計らいであっても、その思いは通じないことがある。丁寧すぎるほど詳細に園の考えを伝えたい。

【IV. 地域との関わり】

- ①地域の住民や関係機関・団体との連携
- ・ファミリーサポートセンター
 - ・子ども110番指定園

【V. キリスト教保育】

①基本姿勢

・園長は理解されているが、保育者には真の意味が十分に伝わっていないように感じた。

②礼拝(聖書・お祈り・讃美歌)

「職員礼拝」は、園長の項に記載しているが、毎朝9時に朝礼を持ち、1～2名の保育者(毎日違う保育者)と共に祈り、聖書を読み、メッセージを聞き、質問をして、園長と職員の良き交わりの時間を大事にしている。集団の中で個を大事にするするキリスト教保育の基本を保育者が体験し、充実した時間を持っている。

「保育の中での礼拝」は、訪問日には、翌日のサッカー大会のためのイベントの始めに、礼拝らしき集会があった。0歳児から5歳児まで一緒だった。同席する保育者がリードして大きな声で歌ったりする姿があった。サッカー試合の盛り上げ日だったから、いいのかもしれないが、勢いが強すぎると思われる。礼拝や集会は静の活動なので、心を落ち着かせて過ごしたい。

「イエスさまわたしに」の讃美歌は手拍子が入り、楽しそうである。また、さんびか「こどものとも」を手話歌風に歌っていたのも、工夫されていてよい。

乳児も参加しているときはテンポをゆっくりし、詞をはっきり歌いたい。讃美歌は言葉を大事にする歌であるから、乳児にとって今はうまく歌えなくとも、乳児期に幼児の歌声を聴くことは成長に必要なので、配慮が必要である。

リードの保育者は静かに語りかけ、静かに祈りたい。

「聖句暗唱」の際、一斉に「ルカによる福音書〇章〇節」と1歳児がいうのは疑問である。

ホールの正面に「隣人を自分のことのように愛しなさい」と書いたのが貼ってある。

【総評】 光の子保育園 沖縄市 訪問日 2011年 1月 13日(木)

冬でも温暖な沖縄市という地域の静かな住宅地にある温かい環境の中で、子どもたちは明るくのびのびと過ごしている園である。

キリスト教保育で最も大切なのは人の関係の温かさであるが、それをしっかり備えた人間関係に恵まれている。子どもたちと保育者、そして園長との関係は、おおらかで素晴らしい。平和を強く願い、個を大切にしたい温かさを受ける園である。

今後は、個々の子どもの発達理解と、子ども自らすすんで遊ぶ保育展開に心がけ、この園で過ごす子どもたちが幸せに過ごすために努力を期待する。